



学校だより



小川小学校 ○ 考える子 ○ 優しい子 ○ 元気な子

令和3年10月6日 No.19

《イヤな気持ちを、エネルギーに変えていく》

10月5日（火）の放送による校長からの講話を掲載します。

1つめのお話は「イヤな気持ちを、エネルギーに変えていく」というお話です。

みなさんは、どんなときに「イヤな気持ち」になりますか？

友だちとけんかしたとき？親や先生に怒られたとき？それとも、勉強や運動ができる友だちのことをうらやましく感じるのでしょうか？できることなら、イヤな気持ちになりたくありませんよね。ただ、みなさんにお伝えしたいのは、そんな**イヤな気持ちこそ、「あなたを大きく成長させてくれる大事なもの」**だということです。

今の言葉とこれから話すことは、人間の脳のことを研究している中野信子さんの言葉です。続いて、中野さんはこのようにもお話をしています。

今、みなさんの中には、自分の性格の良いところやあまり良くないところ、友だちと比べてできない部分などをだんだん知ってくる年齢だと思います。そのことで、「わたしって頭が悪いんだ」「ぼくは運動が上手にできないんだ」とイヤな気持ちになって、自分を責めたり、がっかりしたりすることもあるかもしれません。

そんなことを感じるのは、あなたの性格がもともとダメだとか、能力が足りないからではなく、あなたの体が、「成長している途中」だからです。人間の脳は、わざわざみなさんが気づけるように「イヤな気持ち」をつくっていることがあります。

みなさんはこれから時間をかけて、成長していきます。そして、体の一部である脳もまた成長していきます。**今、うまくできないことがあっても、時間がたてば自然とできるようになることが増えていきます。**きちんと計画を立てて勉強するのが苦手でも、自分なりのやり方でできるようになります。友だちとうまく話せなくても、少しずつコミュニケーションの力がついていきます。**今、いろいろなことが思ったようにできないのは、成長の途中にある脳の立場から見ればあたり前のことなのです。**

みなさんは、一人一人の体の成長スピードが違います。だから、周りの友だちと比べて、落ち込みすぎないようにしてください。**未来は誰かが勝手に決めるものではなく、みなさん一人一人が生み出していくものです。**自分の良いところや苦手なところを正しく知って、生かしてください。充実した人生を送ることができます。（こども脳科学 中野信子 著）

2つ目は「心の栄養を取りましょう」というお話です。

さて、皆さんは、一日に何度食事をしますか。朝食、学校で食べる給食、お家で食べる夕食。ふつうは、3回ですね。お家で食事の支度をする家族の方、学校の給食を作る栄養士さん、みなさんの栄養を考えておいしい食事を作ってくださいます。そのおかげで、皆さんの身体は成長し、大きくなっているんですね。

皆さんに、もう一回食事をしてほしいと思います。「え、1日4回も？」と不思議に思う人もいることでしょう。あとの一食は、頭や心の栄養になる本のごはん、読書です。読書のすばらしさは、文章を読みながらその様子を頭の中で想像したり、心の中で想像してみたりすることができることです。楽しいこと、悲しいことを、読む



ことによって頭や心に思い浮かべてみるができることです。どうか、**3回の食事のほかに「本のごはん」をとる。一日のどこかに静かに本を読む時間を作ってほしい**と思います。（裏面に続きます）

最後にコロナウイルスがまだ収まっていません。油断しないで引き続き「丁寧に手洗いをする・マスクを正しくつける・人がたくさんいるところや空気の換気がしていないところには行かない」を守ってください。そして、**健康観察票もみんなが登校する前に「記入していないところがないか」を確認してください。**一人一人ができることをしっかり行いましょう。

《10月の生活目標「元気よくあいさつしよう」について》

10月5日の放送での朝会の中で10月の生活目標のお話が次の内容でありました。

10月の生活目標は「元気よくあいさつしよう」です。9月は時差登校があり、特にBグループの人たちは朝が大変でしたね。毎朝外でみんなの様子を見てみると、元気よくあいさつをしたり、なかにはまだまだ元気が出ない子もいるように先生は感じました。

そこで小川小学校の児童のみなさんがもっとすてきなあいさつができるように「さわやか」に挨拶することを意識してほしいと思います。

下を向いていたら「さわやか」なあいさつになりませんね。あいさつする人の顔を見て、笑顔であいさつするところから始めましょう。

先生もみんなに負けないように「さわやか」なあいさつをします。負けないようにしましょう。そして、学校にきたお客様にも「さわやか」なあいさつをお願いします。

《福沢諭吉「学問のすすめ」から学ぶ》

『学問のすすめ』が出版されたのは、江戸から明治に時代が変わったばかりの時です。世の中の仕組みが大きく変わり、人々の生活も大きく変わり、どうしてよいか分からない日々が続いたようです。福沢諭吉は、この大変な時代を生き抜くためには、一人一人が社会に役立つ勉強をして、自立することが大切だと考え、そのメッセージを『学問のすすめ』の中に込めました。



○なぜ学ぶことは大事ななの？

「天は人の上に人を造らず人の下に人を造らずと言えり。……賢人（けんじん）と愚人（ぐじん）との別は、学ぶと学ばざるとに由（よ）って出来（いでく）るものなり。」

「天は人の上に人を造らず人の下に人を造らず」これは福沢諭吉が書いた『学問のすすめ』にある有名な言葉です。「人間にはもともと身分の上下はなく、みんな平等である」という意味です。

実はこの言葉と一緒に、もう一つ重要なことを「学問のすすめ」は教えています。それは、すぐれた人とそうでない人の違いは、勉強するかどうかで決まる」と言っています。人は同じスタート地点から出発するけど、学びによって将来に違いが表れると言っています。例えば、勉強も運動もめんどくさい、と頑張ってやらないと大変なことになってしまいそうですね。

○学んだらどうするの？

「専（もっぱ）ら勤（つと）むべきは 人間普通日用（にんげんふつうにちよう）に近（ちか）き実学（じつがく）なり。」

学校では毎日いろいろなことを勉強しています。習い事に通って学んでいる人もいます。そうして学んだことを『学問のすすめ』では、「学んだことを自分の生活に役立てることが大事だ」と言っています。

例えば、英語を習ったのなら、思い切って外国の人に話しかけてみましょう。通じたら自信になりますし、みんなの世界が大きく広がります。その体験こそが本当の生きた力になります。